

アフリカ地域の国旗一覧表【由来】

アルジェリア民主人民共和国 1920年代に反フランス運動の指導者となったマッサリ・ハジが作り、民族解放戦線の旗として掲げられた旗を、独立を機に國旗にした。この地域では、新月と星は幸運の象徴といわれている。	アンゴラ共和国 アンゴラ開放人民運動（MPLA）のときには使われた旗に、農民を表した農耕用ナイフと、工場で働く人々を表した歯車をつけ加えてデザインした。星は、アンゴラ共和国がMPLAの指導下になっていることを示している。	ウガンダ共和国 もともとはウガンダ人議会の党旗に由来したもので、黒・黄・赤の3色のストライプで構成されている。国旗の真ん中には国鳥のカンムリヅルがあしらい。黒はアフリカ人の愛と勇気を表し、黄色はアフリカの夜明けの太陽を、赤は民族の融和と同胞愛を表している。	エジプト・アラブ共和国 上段の赤は革命を、中央の白は輝かしい未来を、下段の黒は過去の暗い時代を象徴している。真ん中に配置されているのは「サラディンのタク」呼ばれる国章である。王政時代には、緑地に白い新月と3つの星がデザインされた国旗だった。	エチオピア連邦民主共和国 上段から緑・黄・赤の配色になっていて、古来からエチオピアで使用されてきたなじみ深い色である。アフリカ諸国の独立の際に、国旗の見本となったので汎アフリカ色と呼ばれている。真ん中にはソロモンの印章が配置されている。	エリトリア国 3色の三角形で構成されていて、緑は農業を表し、赤は独立のために流された血を表現。青は豊かな海洋資源を、中央の星はアフリカ諸島の独立運動の父といわれるエリトリアの初代大統領を表していて、自由への道しるべの意味が込まっている。	ガーナ共和国 上段から赤・黄・緑の「汎アフリカ色」。独立にいたってアフリカ最古の独立国であるエチオピアの国旗にならしている。黄を白に変更した時期がある。中央の黒い星は、アフリカの独立運動の父といわれるガーナの初代大統領を表していて、自由への道しるべの意味が込まっている。
カーボベルデ共和国 青は空と海を表し、白は国民の努力を表している。紅白の帯はこの国が作られるまでの道のりを示して、黄色の10の星はカーボベルデ諸島の主な島の数である。独立したときには、もともと連合する予定だったギニアビサウの国旗と似通ったデザインだった。	ガボン共和国 左から緑・赤・黄の汎アフリカ色で構成される。独立後不久か変更されているが、汎アフリカ色は同じである。旗は国の南北にある豊かな森林地帯を表し、黄色は輝く太陽と北部のサバンナを、赤は南北の団結と耕作地帯を表し、星は栄光のシンボルとなっている。	カメルーン共和国 左から緑・赤・黄の汎アフリカ色で構成される。独立後不久か変更されているが、汎アフリカ色は同じである。旗は国の南北にある豊かな森林地帯を表し、黄色は輝く太陽と北部のサバンナを、赤は南北の団結と耕作地帯を表し、星は栄光のシンボルとなっている。	ガンビア・イスラム共和国 上段の赤は太陽を表し、中段の青は国の中核を流れているガンビア川を、下段の緑は豊かな農業資源を表している。旗の白のライオンは、团结と平和の象徴。大統領の旗は、旗に国章が描かれたもので、旗の周囲が黄色く縁取りされている。	ギニア共和国 汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑の配色で構成。色の意味はアフリカ諸国によって違いがあり、この国では赤は労働と献身、黄色は正義と黄金、緑は团结と農業のシンボルとなっている。	ギニアビサウ共和国 汎アフリカ色と呼ばれる赤・黄・緑で構成される。ギニア・カーボベルデ・アフリカ人独立党（PAIGC）の旗ともどつて考案された。黄色は北部のサバンナを表し、緑は北部の森林地帯を表す。赤は海岸地帯を表し、黒星は独立アフリカのシンボルである。	ケニア共和国 黒はケニア共和国の国民を表し、赤は独立で流された血を、緑は農業と肥沃な大地を表す。白線は平和と国民の統一を表現し、旗の中心の紋章はマイ族の盾と槍で、自由と独立のシンボルになっている。
コートジボワール共和国 旧宗主国であったフランスの影響を受けていて、3つの帶は国標の構成である「团结・規律・労働」に対応。左側のオレンジは北西部バナナの繁榮を表し、緑は南部の森林地帯と未来への希望を表現。白は北部と南部の統一と团结を表している。	コモロ連合 独立してから回る国旗が変わっているが、いずれも新月と10の星がデザインされている。青は水と陸と進歩を表し、白は純潔と清廉、赤は獨立のためには流された血を表す。青いライオンを表している。また、黄はムワリ、白はマイヨット（フランス領）、赤はクランドコモロ、青はヌスマニーの各島を表現しているともいわれる。		コンゴ共和国 コンゴ人民共和国からコンゴ共和国に国名が戻るのをきっかけに、1958年から1970年まで使用された緑・黄・赤の汎アフリカ色の国旗に戻された。緑は農業と未来への希望、黄色は誠実さと友愛、赤は熱意を表現。1991年までの人民共和国時代にはハンマーとクリークをデザインした赤旗だった。	コンゴ民主共和国 独立してから6回目の国旗で、1963年から1971年の間に国旗に戻して青の色調を明るく変更されている。青は平和を表し、赤は独立運動と平等を表現している。中央の2つの黒い星は、サンクトペテルブルクとブリニシベ島の象徴である。独立闘争時のサントメ・ブリニシベ解放運動の党旗がもとになっていて。	サントメ・プリンシペ民主共和国 汎アフリカ色で構成され、中段の黄色は太陽を表し、上段の緑は豊かな天然資源を表す。左側の赤は独立運動と平和を表す。右側の赤は独立闘争で犠牲になった尊い血を表現している。黄色の星は輝かしい未来のシンボルとなっている。	ザンビア共和国 地色の緑は農業と天然資源を表し、赤の縦線は自衛を勝ち取るために闘争を、黒は国民を、オレンジ色は鉱物などの豊かな鉱物資源を表している。右上の星を広げたのは自由に困難に負けずに前進する力を表現。1996年にジンバブエの大ささと地色の緑の色調を変えて今の国旗になった。
ジブチ共和国 白は空と象徴で、青は空と海を、緑は地図を。赤い星のマークは国家の独立と統一を表現している。さらに、青はソマリイ族を表し、緑はイスラム教徒であるエチオピア系のアフリカル族を表していて、白い三角形で2つの民族が平等に团结することを表現している。	ジンバブエ共和国 緑は農業と繁栄を表し、黄色は豊かな鉱物資源を、赤は民族解放斗争と犠牲性に満ちた国民の力を表現している。白は平和と進歩を表す。黒はジンバブエ国民を表現したもの。左側の赤のモチーフはジンバブエの遺跡に刻まれている朱光の象徴であり、赤い星と一緒にあって社會主義との連帯を意味している。	スーサン共和国 1956年～1970年までガボンの国旗の色に反映していたが、1970年から1971年の間にアフリカの統一を願って赤・白・黒・緑の汎アフリカ色の国旗を制定した。赤は革命によって流された尊い血を表し、白は平和と未来への光を、黒はブラックアフリカを、緑の三角形はイスラム教徒の繁栄を表現している。	スワジランド王国 第2次世界大戦でさなかに、イギリス軍に混じって戦ったスワジン族の軍団の旗がもとになっている。中段の赤は自由のための過去の戦争を表し、青は平和を、黄色は豊かな農業資源を表現している。真ん中にはヤリ・盾、鼓舞棒や、青い天牛の羽がついた王のしゃくなげなどデザインされている。	赤道ギニア共和国 独立したときの旗が復活した。左側の青の三角は本土と島々を結んでいる海を表し、緑は農業と自然資源を、白は平和を、赤は独立闘争で犠牲になった尊い血を表現している。真ん中にはヤリ・盾、鼓舞棒や、青い天牛の羽がついた王のしゃくなげなどデザインされている。	セーシェル共和国 左下から放射状に5色が配置されていて、上から順に青は空と海を表し、黒は太陽を、赤は労働と国民を、白は正義と調和を、緑は国土を表現している。独立してから3番目にになるこの国旗は、政府が調和するためには全政党の旗を組み合わせた。	セネガル共和国 左から縫、黄・赤の縦3分割のデザインで、真ん中には自分のシンボルの線の図が描かれている。この3色は汎アフリカ色。1959年にマリと連邦をつけて翌年に連邦として独立を果たしたが、2ヶ月後に連邦から離脱した。マリ連邦当時の旗には中央に黒い人の像が配されていた。
ソマリア連邦共和国 地色は水色で中央に白星が描かれる。五芒星は5つのソマリ族の居住地区があることを指して、国土と民族の統一を表現。独立時の国連の努力をたたえる意味で、国連旗の青色を探用した。	タンザニア連合共和国 タンガニーカとザンジバル両国が合併したので、2つの国々の旗を組み合わせて作った。緑は国土と農業を表し、黒はアフリカ人を、青は印度洋を、2本の黄色のラインは豊かな鉱物資源を表現している。	チャド共和国 旧宗主国だったフランス国旗の圖柄に影響を受けていて、真ん中の部分を汎アフリカ色の黄色に変更してきた。黄色は太陽と鉱物資源と北部地方を表し、青は空と希望と南部地方を、赤は独立闘争で流された血と国民の団結と進歩を表現している。	中央アフリカ共和国 フランス国旗の青・白・赤と汎アフリカ色の黄・赤・紫を組み合わせて5色で構成され、中央の縦ライオンの赤は、王者が持っている赤い血と情熱のシンボルである。緑は農業と森林の住民を表し、黄色は地下資源とサバンナ地帯の住民を表現している。	チュニジア共和国 歴史的に関わり合いの深いトルコの国旗の三日月と星のマークを白赤反転させたようなデザイン。19世紀から使用されていたが、1999年に月と星の大きさを変えた。3日月はフェニキア人の美の女神タニスのシンボルである。	トーゴ共和国 赤は独立闘争で流された尊い血を表し、緑は国民と希望を、黄色は労働を、白は純潔を表現している。緑と黄色の5本の横ラインでこの国の5つの地方を表している。独立前は左上にフランス国旗を配置して、旗面に星を2つ配した緑の旗だった。	ナイジェリア連邦共和国 1958年のコンテストで3000人の候補の中からロンドン留学中の学生が考案したデザインが選ばれ、それをもとに作られた。緑は豊かな森林資源と農地を表し、白は平和と統一のシンボルである。政府旗は国章よりも許容。
ナミビア共和国 独立時にコトゥを行って1000ほどのが集った。青は希望と大西洋を表し、赤は新国建設の決意表明と独立闘争で流された血を、緑は農業と豊かな国土を表現。白線は平和と统一と繁栄を意味し、太陽は生命と活力と繁栄を意味し、太陽は希望と南北地方を、赤は独立闘争で流された血と国民の団結と進歩を表現している。	ニジェール共和国 上段のオレンジ色は北部のサハラ砂漠を表し、中段の白は平和と純潔と潔白を、下段の緑はニジェール川沿いの豊かな農業地帯を表現。真ん中の円は太陽を表し、この国が熱帯地方であることを象徴している。	ブルキナファソ 以前オートポルタとして独立を果たすが、1983年に革命が起こって國名と国旗を変更した。赤は革命闘争と流された尊い血を表し、緑は農業・林業と富と希望を表現。黄色の星は豊かな鉱物資源を表すとともに、革命の原理と指導性の象徴である。	ブルンジ共和国 王国時代には真ん中の円の中にモロコシと赤がついていたが、革命後には国内のフツ族、トワ族、ツチ族の3部族を表現する星のマークに変更された。赤は独立闘争を表し、緑は未来への希望と展望を、白い円は平和を表現している。	ベナン共和国 社会主義政権が崩壊したときに独立時の縦・黄・赤の汎アフリカ色の旗を復活させた。赤は黒人やヤシ林を表し、黄色は北部のサバンナ地帯を、赤は両地域の融合と発展および祖国防衛のために流された血を表現している。	ボツワナ共和国 雨が少なくて水資源が貴重なこの国の人たちにとって、青は恵みの雨のシンボルである。黒と白の横線は、黒人と白人が協力して平等な社会を作るという決意が込められている。同様の理由からシマウマはボツワナの動物に指定されている。	南アフリカ共和国 紋章つきの旗国外においては、世界で一番多くの色を採用、横のY字形は、国内のさまざまな人種が統一されて前進するこれを意味する。かつての旗は、オランダ旧領の中にオランダなどの3つの国旗を並べたものだつた。
マダガスカル共和国 以前のメリナ王朝時代（マレー系民族）から親しまれてきた赤と白をもとに、独立時に東部海岸地方のベツィミサラカ人を表す緑色が加えられてきた。赤は愛と主権を表し、白は純粋さと自由を、緑は進歩と希望を表現している。	マラウイ共和国 アフリカ諸国でよく見かける独立運動を推進したマラウイ党の旗である。赤は民族解放戦線の旗を表す。マラウイの自然を表現している。	マリ共和国 旧宗主国だったフランス国旗をもとに汎アフリカ色を採用してできた旗。緑は農業と自然を表し、黄色は金などの鉱物資源を、赤は独立のために流された尊い血と勇気を表現している。	南スудан共和国 2011年7月に独立して国連加盟国になった。黒は汎アフリカ色を表し、白は独立闘争で手にした自由と平和を、赤は革命のために流された血を、緑は豊かな国土を表現。青い三角形はナイル川を表し、黄色のベツレヘムの星は国民の団結の象徴である。	モザンビーク共和国 かつてのモザンビーク解放戦線旗に國章の一部を記した。黒は汎アフリカ色を表し、白は独立闘争で手にした自由と平和を、赤は革命のために流された血を表す。緑は農業を、黒はアフリカ大陸を、黄色は鉱物資源を表現。白のライオンは平和と正義のシンボルとなっている。	モーリシャス共和国 独立以降国旗の変更はない。上段から順に赤は独立のために流された血を表し、青はインド洋を、黄色は太陽の光と自由を、緑は農業を表現している。独立以前はイギリス国旗を旗竿の上部に配して、旗面に紋章をつけたデザインだった。	モーリタニア・イスラム共和国 モーリタニアに限らず、国旗はその国の文化や歴史、宗教が色濃く反映されている。地色の緑と、三日月と星はこの国がイスラム教であることを意味する。黄色はサハラ砂漠の砂を表現。
モロッコ王国 赤旗は今の王朝が300年以上使用している。20世紀の初めにソロモンの印章というイスラム伝統の緑色で描かれた紋章を配した。市民の海上旗には、旗竿の上部に黄色の王冠がデザインされている。	リビア 政權交代によって王政期時代の旗を再び使用。赤はエザン地方と劍と力を表し、黒はケイラ地方とイスラム地方の闘争を表す。紋章トリニティア地方と高潔を表す。真ん中の白い月と5角星はイスラムの象徴である。	リベリア共和国 アメリカ合衆国で解放された黒人の奴隸が作ったので、星条旗の影響が大きい。11本の紅白の線は、独立宣言に署名した11人を表現している。	ルワンダ共和国 1999年にルワンダ政府は国旗を変更するように決めたが、2年かかってようやく制定された。青は青空と平和を、黄色は経済の発展と協調を、緑は農業と繁栄を、右上の金色の太陽は未来への希望と統一と無知との戦いを表現している。	レソト王国 1966年以降3つめの旗で、独立したときのレソト帽のデザインを復活させた。青は空と雨を表し、白は平和を、緑は豊かな国土と繁栄を、黒はアフリカ大陸を表現している。3色の構成は、3:4:3で真ん中の白ライオンが幅広になっている。		